

がんセンター だより

2023年
3月発行
—Vol.7—

目次

- がんセンター副センター長 あいさつ
- がん診療センター長 あいさつ
- 第15回がんフォーラム開催報告
- 地域相談支援フォーラムin岩手開催報告
- 対話カフェ(YouTube)
- がんサロンからのお知らせ
- 院内のがん相談窓口

寄り添い、
共に歩む医療をめざして ——

第15回岩手県
がんフォーラム様子



がんセンター 副センター長 あいさつ

副センター長 **小原 航**

(医学部 泌尿器科学講座 教授)



が実現化されてきています。薬物療法に関しては従来の抗がん剤に加え、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤が開発され、治療効果が高く副作用の少ない薬剤が提供されてきています。放射線療法に関しては定位放射線治療や強度変調放射線治療といった技術革新により、がんには線量をより集中させ、かつ正常細胞への障害を軽減することが可能になってきています。また、がんの遺伝子変異に基づくがんゲノム医療が推進され、患者さんに応じた個別化医療の提供が期待されています。さらに、がんに伴う心や体のつらさを和らげるといった緩和ケアの充実も図られてきています。

しかし、どれだけがんの診断や治療法が進歩したとはいえ、診療の中心が患者さんであることに変わりはありません。がんと診断されたがどのような治療法があるか分からない、治療によってどんな副作用が生じるのか、治療費にはいくらかかるのか、治療が効かなくなった場合にどうなるのか、治療以外にも仕事や家族そして将来への不安を抱えている等々、がん患者さんの悩みや不安は尽きません。当がんセンターでは医師や歯科医師のみでなく、薬剤師、看護師、放射線技師、理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーそして事務員から構成されるスタッフ一同で、がん患者さんひとりひとりが抱えられる様々な悩みや不安に向き合い対応してまいります。「患者さん中心の優しいがん医療の提供」を理念に、今後も様々な取り組みを進めてまいりますので、皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

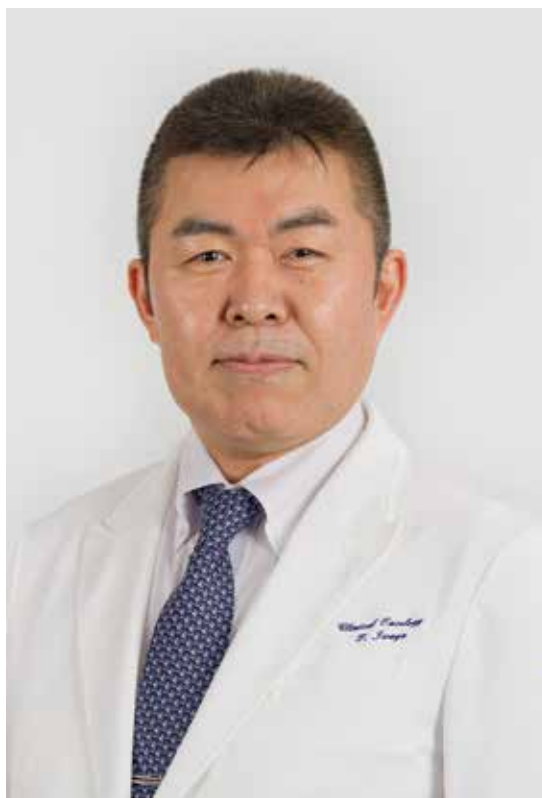
2022年8月より岩手医科大学附属病院がんセンターの副センター長を拝命しました小原航です。がんセンター長の板持広明先生とともにがん診療の向上に努めてまいります。

最新のがん統計によると、日本人の2人に1人が一生のうちにがんと診断され、男性の6人に1人、女性の4人に1人ががんで亡くなるとされています。一方、がん患者さんの5年生存率はがん検診の普及による早期発見および早期治療や新たながん治療法の開発などにより改善してきております。がんに対する代表的な治療法には手術、薬物療法、放射線療法がありますが、近年、各治療法において飛躍的な進歩がみられます。手術に関しては従来の開腹手術から腹腔鏡手術さらにロボット支援手術へと発展し、患者さんにとって優しく痛みの少ない手術

がん診療センター長 あいさつ

センター長 **岩谷 岳**

(医学部 臨床腫瘍学講座 特任教授)



がん診療の進歩は著しく、身体の負担の少ない内視鏡治療や低侵襲手術治療、多様で高精度な放射線療法、新しいがん薬物療法（いわゆる抗がん剤治療）が続々と開発されており、最新の医療が提供できるよう各部門がより専門性を磨いております。また内視鏡・腹腔鏡合同手術、放射線併用化学療法、手術前・術後のがん薬物療法など多部門が連携し集学的な治療を行うことで治療成績の向上につとめております。さらに、医薬品の効果や副反応を事前に予測するために行われるコンパニオン診断や、がんに関連する多数の遺伝子変化を同時に解析するがん遺伝子パネル検査も「がんゲノム医療連携病院」として多数実施しております。これらの新しい検査方法を用いて、一人一人のがんの遺伝子変化（がんの個性）を明らかにし、患者さんにより適した治療を行うがんの個別化医療やがんゲノム医療（がんの遺伝子情報に基づく治療）の推進につとめております。診断・治療の難しい患者さんでは、カンサーボード（多診療科・多職種による症例検討会）によるがん診療の総合的検討を行い、最善の治療を提供できるようにしております。

がん診療センターでは、これまで以上に高度かつ専門的な診療を行うと同時に、がん薬物療法、放射線治療、手術療法、病理・遺伝子診断、口腔ケアなど各分野が有機的に連携した総合的な診療体制の構築に尽力する所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2022年8月より、がん診療センター長を拝命いたしました。がん診療センターは岩手医科大学附属病院のがんセンターに、内科部門、外科部門、臨床腫瘍科部門、病理部門、放射線部門、リハビリテーション部門、歯科部門の6部門からなる新しいセンターとして2021年4月1日に設置されました。がん患者さんに対し各部門の密接な連携の下に、診療科の垣根を越えた臓器横断的かつ総合的ながん診療を行い、患者さんの生命予後とクオリティ・オブ・ライフ（QOL；生活の質）の改善に向けた取り組みを推進しております。

当院は、「都道府県がん診療連携拠点病院」として、地域の医療機関と連携して、各診療科・部門を中心に患者さん本位の専門性の高い総合的ながん診療の提供を行っております。近年の



テーマ 妊孕性温存療法

令和4年12月15日(木)盛岡市内にて、岩手県、岩手県がん診療連携協議会、岩手日報主催の「第15回岩手県がんフォーラム」が開催されました。

本フォーラムでは、「妊孕性温存療法」をテーマに、京野アートクリニック盛岡の熊谷仁院長による基調講演や、岩手医科大学の医師や胚培養士によるパネルディスカッションが行われました。妊孕性温存とは、がん治療によって妊娠するための能力(妊孕性)が損なわれる可能性が高い患者が、治療前に卵子や精子、胚、卵巣を温存しておく療法です。

当センターからも、基調講演の座長をセンター長の板持広明教授が、パネルディスカッションでは副センター長の小原航教授、がん診療連携室長の伊藤薫樹教授が出演し、「岩手県における妊孕性温存療法の現状」をテーマに、担当診療科の立場よりお話をいただきました。

岩手県でもネットワークが立ち上がり、県と岩手医大、京野アートクリニックが協力し、がん治療後の将来の妊娠・出産につなげる取り組みが進められております。当センターでも協力して取り組んで参ります。

この様子は、岩手日報ホームページにて3月31日まで動画で公開されております。是非ご覧ください。



板持広明氏



熊谷 仁氏

第1部 基調講演

「がん治療後に子どもを持つために
－妊孕性温存を考える－

座長 板持広明氏(岩手医科大学附属病院 がんセンター長)

演者 熊谷 仁氏(京野アートクリニック盛岡 院長)



馬場 長氏



小原 航氏



伊藤薫樹氏



尾上洋樹氏



小岩佳夏子氏

第2部 パネルディスカッション

「岩手県におけるがん妊孕性温存療法の現状」

座長 馬場 長氏(岩手医科大学 産婦人科学講座 教授)

パネリスト 小原 航氏(岩手医科大学 泌尿器科学講座 教授)

伊藤 薫樹氏(岩手医科大学 内科学講座血液腫瘍内科分野 教授)

尾上 洋樹氏(岩手医科大学 産婦人科学講座 助教)

小岩佳夏子氏(内丸メディカルセンター 生殖補助医療胚培養士)

令和4年度

地域相談支援フォーラム in 岩手 開催報告



令和5年1月28日(土) 岩手県民情報交流センターアイーナにて「令和4年度地域相談支援フォーラム in 岩手」が開催されました。

東北がんネットワークでは、東北地区のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援業務を行う相談員の、がん相談に関する対応力向上を図る為、東北6県持ち回りで当フォーラムを毎年開催しており、今年度は、初の岩手県での開催となりました。

本フォーラムでは、NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事で、岩手医科大学客員教授である高橋都先生による基調講演、東北各県のがん患者相談部会による様々な活動や先駆的取り組みについての発表がございました。また最後には、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーなど多職種によるパネルディスカッションが行われ、活発な議論が交わされました。

WEBでの受講も可能で、県内外各地から総勢150名の相談員が参加し、当がんセンターからも、がん相談支援センター長の秋山准教授をはじめ、沢山の医療ソーシャルワーカーや看護師が参加致しました。

がん相談支援業務の実際と現状について理解を深めることができ、また患者さんやご家族と医療者をつなぐ役割についてなど、様々な意見交換を行うことができました。

研修会の最後には、引継ぎ式が行われ、次年度は、宮城県での開催が予定されております。

第1部 東北各県の発表

「部会活動と先駆的取り組みの報告」

第2部 基調講演

「“その後”を生きる人にどう伴走できるか
～情報と感情のはざま～」

第3部 パネルディスカッション

「がんサバイバーへの支援」
～相談員としてどのような
支援が必要か考える～



がん患者相談室専門委員会委員長 丹野弘晃先生



記念写真



高橋都先生



左：宮城県立がんセンター がん相談支援センター長 佐々木治先生
右：当がんセンター がん相談支援センター長 秋山有史先生

がんセンター企画 もっと知りたい! がんの診断と治療の最前線



岩手医科大学附属病院 がんセンター

がんセンターでは、コロナ感染拡大に伴い、がん患者さんとそのご家族に対するがん関連情報が十分に発信されていないことを踏まえ、これまでがんセンターが取り組んできた医師との「対話カフェ」に代わるコンテンツを収録して最新情報をがん患者さんやご家族に広く周知を図ることを目的として動画を公開しております。

学校法人岩手医科大学 公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCWMILNlL_OnLX3ftq2-YR9A/videos



QRコードは
こちら

第1回 頭頸部癌の診断と治療 ー頭頸部がんとは?ー

志賀 清人 先生

岩手医科大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授



第2回 原発不明がん

板持 広明 先生

岩手医科大学 臨床腫瘍学講座 教授



第3回 緩和ケアセンターの ご紹介

鴻巣 正史 先生

岩手医科大学 緩和医療学科 講師



第4回 現在のがん患者に対する リハビリテーション医療

西村 行秀 先生

岩手医科大学 リハビリテーション医学講座 教授



第5回 がん患者・家族サロンの ご紹介

岩手医科大学附属病院
がんセンター事務室



「今後もがんに関する様々な情報を動画でアップ予定です。
皆様、ぜひご覧ください。」

岩手医科大学公式YouTubeチャンネルに動画を掲載しております。



3年間ありがとうございました!



3年間皆様方に変にお世話になりましたスタッフの神原が12月末をもちましてがんサロンを退職致しました。

在職中は、大変お世話になりました。3年間という短い期間ではありましたが、がんサロンにいらっしゃる皆様には、たいへん良くしていただき、心より感謝申し上げます。本来であれば、ゆっくり挨拶をしたいところでしたが、コロナ禍のためタイミングが合わず、この場を借りまして感謝申し上げます。また、皆様方には、沢山のご支援を頂き、誠に感謝申し上げます。今後ともがん患者・家族サロンをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

神原 榮子



がん患者・家族サロンからのお礼



まけないゾウ



折り紙作品



干支の置物



コットン帽子



タオル帽子



手作り人形



50羽鶴



手作り帽子

たくさんの寄贈ありがとうございます。

がん患者・家族サロンでは、コットン帽子、タオル帽子、アイデア帽子など、ボランティアの方々より、とても心のこもった手作り帽子をたくさん寄贈頂いております。脱毛でお困りの方は、是非スタッフにお声掛けください。きっと似合う帽子を探してくれます。そのほか沢山のアイデア作品もございますので、サロンに訪れる際は、楽しみにしてください。皆様方からの温かいご支援、心より感謝申し上げます。



子供用布キャップ



つまみ細工

患者さまより、お礼のメッセージが届いております。

本当にありがとうございました。

初めてのことなので何もかもがわからないのですが、
お話を聞いて皆さんのアドバイスがあることを知り、
心強かったです。どの程度振付たりと、分かりませんが
大事に使おうと思います。ありがとうございます。
元氣になります。



アイリスの会の皆様 こんにちは。私は3か
月の医大入院を終え、現在は外来で抗がん
剤治療を始めることになりました。病院
へ来る時、いただいた帽子をかぶっていま
す。素敵な帽子を編んでいただき感謝の気
持ちで一杯です。ありがとうございます。

さこさんへ
とても素敵で
すてきなぼうしありがとう
ございました
これからものぼうしで
だんごね

とても可愛いぞうさんを作ってください
ありがとうございます。娘がとても気に入
り、ぎゅーと抱きしめてよこんでい
ます。娘が1歳半になり動物に興味があ
ってきてとても可愛いぞうさんと一緒に頑
張りしたいと思います。本当にありが
うございました。「病気にまけないぞう!!」

寒くはなれど、暖かいニット帽子を編り、
お礼がこまりました。
ご支援ありがとうございます。
大切に保管させていただきます。



岩手ホスピスの会の皆様 自慢の黒髪が
抜け心もとなない気持ちでおりましたが、
皆様の誠のこもった手作りタオル帽子を
使わせて頂きました。しっかりしていて
寒さの厳しい盛岡の冬に助かっておりま
す。有難うございました。



院内のがん相談窓口

■がん相談支援センター

がん相談支援センターは、がん患者さんやご家族だけでなく、どなたからのご相談も、面談または電話により無料でお受けしております。

専門の相談員が対応しますので、心配なことがありましたら、どんなことでもご相談ください。(個人情報は厳守いたします。)

お待たせすることもありますので、あらかじめ日時をお約束をすることをおすすめいたします。



医療費・経済的負担のこと

療養生活のこと

セカンドオピニオンのこと

病気のこと

仕事と治療のこと

家族のこと



☎019-611-8073 (直通)

平 日 (月～金) 9:00～16:00

第1・第4土曜日 9:00～12:00

岩手医科大学附属病院 1 階
患者サポートセンター内

■がん患者・家族サロン

がん患者・家族サロンは、がん患者さんおよびその家族に対する精神面を中心としたケアの充実を目的とした場所です。岩手医科大学附属病院での治療の有無に関わらずどなたでも無料で利用できます。

☎019-613-7111 (内線 3222)

平 日 (月～金) 10:00～16:00

岩手医科大学附属病院 東エレベーター 2 階 20 番



がんに関する冊子や書籍の他、治療に伴う脱毛対策としてのウィッグやタオル帽子・コットン帽子のことなど、様々な情報を提供しております。

がん患者・家族サロンホームページ

<https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/salon/index.html>

～ 一人で悩まずに、あなたの不安やつらさをお話してください。～



QRコードはこちら

編集後記

令和4年8月1日に国から示された新たな「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」では、「がん相談支援体制」と「緩和ケアの充実」の項目が重点となっております。がんセンターでは、これまで以上に、皆さまに役立つ情報を発信できるよう心掛けて参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



岩手医科大学

問合せ先

岩手医科大学附属病院 がんセンター
〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1-1

TEL 019-613-7111
(内線 3222)